

市営交通バリアフリー計画（抜粋・主な事項に関する予定）

項目	平成 13 年度	計画策定時（平成 15 年 2 月）		平成 23 年 3 月現在				
		平成 14 年度	平成 22 年度	平成 22 年度	平成 23 年度			
職員に対する教育訓練	—	—	—	階層別研修受講職員を対象としてバリアフリーに関する研修を実施。	階層別研修受講職員を対象としてバリアフリーに関する研修を実施。			
地下鉄・ニュートラム関係	駅舎関係	エレベーターによるワンルート確保	78.2 パーセント 119 駅中 93 駅	81.5 パーセント 119 駅中 97 駅	100.0 パーセント 119 駅中 119 駅	100.0 パーセント 133 駅中 133 駅		
		乗り換え経路におけるエレベーターによるワンルート確保	27.8 パーセント 18 駅中 5 駅	33.3 パーセント 18 駅中 6 駅	100.0 パーセント 18 駅中 18 駅	87.0 パーセント 23 駅中 20 駅	100.0 パーセント 23 駅中 23 駅	
		車いす対応トイレの設置	82.4 パーセント 119 駅中 98 駅	84.0 パーセント 119 駅中 100 駅	100.0 パーセント 119 駅中 119 駅	99.2 パーセント 133 駅中 132 駅	100.0 パーセント 133 駅中 133 駅	
			旅客案内表示装置の設置	73.1 パーセント 119 駅中 87 駅	73.9 パーセント 119 駅中 88 駅	100.0 パーセント 119 駅中 119 駅	97.0 パーセント 133 駅中 129 駅	100.0 パーセント 133 駅中 133 駅
		車両関係	車いすスペースの設置	82.8 パーセント 198 列車中 164 列車	87.4 パーセント 198 列車中 173 列車	100.0 パーセント 197 列車中 197 列車	100.0 パーセント 219 列車中 219 列車	100.0 パーセント 220 列車中 220 列車
				車内案内表示装置の設置	37.7 パーセント 1,268 両中 478 両	44.6 パーセント 1,268 両中 566 両	83.1 パーセント 1,258 両中 1,046 両	86.8 パーセント 1,350 両中 1,172 両
	車体側部の行先表示装置の設置		80.3 パーセント 1,200 両中 964 両	83.0 パーセント 1,200 両中 996 両	100.0 パーセント 1,190 両中 1,190 両	100.0 パーセント 1,270 両中 1,270 両	100.0 パーセント 1,280 両中 1,280 両	
			車両連結面の転落防止装置の設置	97.2 パーセント 181 列車中 176 列車	98.9 パーセント 181 列車中 179 列車	100.0 パーセント 180 列車中 180 列車	100.0 パーセント 182 列車中 182 列車	100.0 パーセント 183 列車中 183 列車
	バス関係		ノンステップバスの増車	13.4 パーセント 912 両中 122 両	15.5 パーセント 912 両中 141 両	98.1 パーセント 912 両中 895 両	87.8 パーセント 719 両中 631 両	98.2 パーセント 683 両中 671 両

- ※ 上段パーセントは達成率を示す。
- ※ 平成 17 年 3 月の運行回数見直しによりバス車両 20 両減（バス関係）
- ※ 平成 17 年 7 月より O T S 線の増加分を含む。（地下鉄・ニュートラム関係）
- ※ 平成 18 年 12 月今里筋線開業による施設量の増減を含む。（地下鉄・バス関係）
- ※ 平成 19 年度より事業規模の見直しによりバス車両 60 両減（バス関係）
- ※ 平成 20 年度の鉄道整備に伴う路線再編等によりバス車両 16 両減（バス関係）
- ※ 平成 21 年度末の輸送力調整によりバス車両 50 両減（バス関係）
- ※ 平成 15 年度から平成 19 年度において全職員を対象としてバリアフリーに関する研修を実施（職員に対する教育訓練）